



動物レスキュー通信

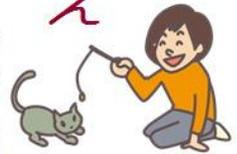
2019年6月 第73号 (令和元年6月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

ネコちゃんを暮らし始める

必要なものと心構え



天皇陛下が即位され、令和になって1カ月、新たな生活がスタートした方、気持ち新たに頑張っている方も多いのではないかと思います。私としては令和元年5月1日に徳川静華と徳川姫殿劇団の一員として2020東京オリンピック&パラリンピックの応援歌「徳川姫殿音頭」をリリースし、気持ち新たに、影響力を持つように、そして愛を持って活動できるように頑張っております。みなさんの中でも新たな気持ちで始めたい事の中に「ネコちゃんとの暮らし」を考えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。一言で「ネコちゃんを飼う」と言っても、おもちゃや人形を買う事とは大きく違い、一つの命と共に生活する事になるので、物理的な準備だけではなく、必ず心構えや知識も必要となります。

浸透していない適正飼養

古くから身近な愛玩動物として親しまれ、今では2017年、2018年と2年連続で犬の飼育頭数よりもネコの飼育頭数の方が上まっております、その差は広がってきていますが、正しいネコの飼養方法については、まだまだ完全に浸透しているとは言えない状況ではないかと思えます。その理由としては、これは私もそうだったように、ネコを飼い始めるきっかけが、捨てネコを拾った(38%)や「知人から頼まれて、もらっ

た」(26.8%)などと言うものが多いために、勉強不足のまま、飼い始めてしまう事があるからです。飼い始めてから情報収集をし、ネコちゃんの習性などを理解し、正しい飼養方法を知る方もいますが、知識なく、なんとなく「一緒に暮らしている方もいるよ」と、マイクロチップや迷子札などの問題。ワンちゃんの場合は狂犬病の関係で必ず都道府県に届け出をしないといけないので、鑑識やマイクロチップなどのワンちゃん的身元を表示している飼い主さんは5%ほどいるのに対し、ネコちゃんの飼い主さんでは50%ほどにとどまっています。又、詩月財団でもそうですが、ネコちゃんを飼う上では完全室内飼養が推奨されています。今は室内飼養が常識になりつつありますが、現状では20%以上の人がネコを放し飼いにしている事が分かっています。放し飼いにしてしまうと「近所のトラブルの種になる可能性があります。車のボンネットの上に足形をつけてしまう、花壇などにふん尿を残してしまう、ゴミを荒らされる、エサやりの残飯などで周囲を汚してしまう、などの苦情が自治体などに寄せられている事などを考えると、20%と言った数字は決して少ないとは言えないという事が分かります。この「近所トラブルが元で、放し飼いにしているネコちゃん」がネコ嫌いの人によって虐待されてしまう可能性も捨てきれません。ネコの習性、適切な飼養方法を学ぶ事は本当に大切です。

必要な心構えと覚悟

先月号でもお話ししましたが、平成30年の平均寿命は、ワンちゃん14.29歳、ネコちゃん15.32歳となっていて、ワンちゃんよりもネコちゃんの方が長生きします。私の愛猫も一番長生きした子で19歳まで生きました。そう考えると、ネコちゃんとの生活を始める時の年齢で約20年後まで、しっかりとネコちゃんの面倒を見てあげられるかどうかを考える必要があります。最近は飼い主さんの世代が徐々に高齢化し、飼い主さんが亡くなったり、長期入院や介護施設に入居するために飼う事が出来なくなってしまう、ネコちゃんが行き先に困ってしまうケースが増えています。そうならないためにも、いざという時の事を考え、家族との相談や、ネコちゃんの世話をしてくれる信頼できる人を見つけておく必要があります。このような背景から、動物愛護センターや動物愛護団体のネコちゃんの里親になれる飼い主さんとして「20歳以上60歳以下」、「経済的余裕がある」、「飼養環境が整っている」などの条件が付けられています。一般社団法人、ペットフード協会の平成30年全国犬猫飼育実態調査によると、ネコちゃん一匹当たりの生涯必要経費が100万円を超えていると言った事もあり、生活が逼迫している状態ではネコちゃんを幸せに暮らす事が出来ず、ネコちゃんだけをなく飼いたい主さんやその家族までもが不幸になつてしまつた可能性があります。最後まで責任を持って飼養するという意味で、ネコちゃんを看取る事が出来るかどうかをじっくり考え、家族やパートナーとも話し合った上で迎える事が、不幸なネコちゃんを減らす事にも繋がります。(詩月)